

これからの山は俺達のものだ！

山林に躍動する若い命

若い年輪

都教育映画コンクール 金賞

文 部 省 選 定

監修 林 野 庁

推薦 労 動 省

企画 林業労働災害防止協会

製作 株式会社 桜 映 画 社

劇映画 16ミリ カラー 33分

対象 青年・成人

■製作意図

林業の人手不足は今や深刻である。都市の過密化ばかりは進んで、国土の約70%を占める山林地帯一帯には過疎情況が生まれつゝある。このような現実が許されていいのだろうか？この映画はそうした林業を背景に、山に生きる人々が林業の近代化・機械化に取り組み、しかも、林業後継者が山に生きる喜びを真に自覚していく姿を感動的に描こうとしたものである。



■あらすじ

山林で働く若者は年々減っている。佐々木克彦はその数少ない若者の一人である。機械集材士の認定、架線技士の免許を持つ吉田は山に働く若者のリーダー格。伸緑会の中心としてこれから林业を考えさせ、近代化への意欲を植えつけることに懸命だ。佐々木の後輩杉浦。修羅出しで父を失った彼は、昔の過酷な山仕事や災害のこと、あるいは町に出て働いている友人のことなどを思うと、今の自分にふと疑問を持ってしまう。

そんな杉浦が町で働く友人の岡本からの電話で町に出てもどらない。佐々木は心配でならない。加えて、村議会に申請していた共同経営林の件も議題からはずされてしまった。山の近代化もなかなかうまくゆかない。

翌日もどった杉浦も加えて、吉田を中心に伐木作業が行われる。機械化により作業能率は向上し、労働災害は減ったが、機械化による新しい事故も増えた。事故を未然に防ぐためには作業前の打合せ、器具の安全点検が充分行なわれねばならない。いよいよ作業開始。吉田の指揮のもとに正しい作業が行われる。チェンソーがうなり、見上げるような大木が空中に弧を描いて倒れていく。男性的な仕事だ。

やっと総務委員会が開かれた。佐々木と吉田は熱弁をふるって彼らの計画とビジョンを語った。そんなところへ町から岡本がもどってくる。「これからは山なんて都会の人間のレジャーの場所さ」という岡本。杉浦はそんな言葉に腹を立てる。「誰がその緑を守るんだ!」杉浦の心から迷いが抜け、山を守る気持がかたまっていった。

翌朝、緑十字の安全旗のもと、伐倒木をおろす杉浦たちの真剣な眼差し、その逞しい姿に岡本は

感動する。若者たちが和解し、明日に向かう明るい笑い声がこだまする。

伸緑会の申請が採択され、共同経営林の計画も具体化してきた。第1次造林が始まった。しかし、あと1日で造林が終わるという夜、強風雨が襲う。叩きつけるような雨音にとび起きてラジオの気象情報に耳を傾ける杉浦。すっかり山男になった杉浦を佐々木は頼もしそうに見やる。

心配された一夜も明けて杉の苗木の露は朝日を受けて輝いている。見つめる杉浦の顔にも朝日がさして瞳が光る。

機械集材士認定講習会。山に生きることを誓った若者たちが真剣にノートをとっている。その中にまじって杉浦の顔も見える。

■製作スタッフ

製作	村山英治	撮影	村山和雄
	利光久輝	助監督	吉沢修三
脚本	堀内甲	音楽	長沢勝俊
	村山正実	編集	浅井弘
演出	堀内甲		

■出演

平島正一	徳弘夏生	保科三良	今橋恒
秋山秀子	永井玄哉	その他	東京芸術座



株式会社

桜映画社

東京都新宿区西新宿1-22-1
スタンダード・ビル TEL(342)5768

取扱店

頒布価格

¥ 130,000